

2021 年度卒業設計優秀作品 大学の部

金賞

連情の景—連歌による合律的設計手法の探求—

小野 誠治 北海道大学工学部環境社会工学科建築都市コース

銅賞

隆起した余白

加藤 雅大 室蘭工業大学工学部建築社会基盤系学科

2021 年度卒業設計優秀作品 短大・高専・専門学校の部

金賞

Diatonic Line

町田 哲平 北海道芸術デザイン専門学校建築デザイン学科

銀賞

Kushiro C Terminal 高架化と LRT でコンパクトシティに

下山 雄大 釧路工業高等専門学校創造工学科

銅賞

御茶間

横山 斐巳 北海道芸術デザイン専門学校建築デザイン学科

2021 年度卒業設計優秀作品 工業高校の部

金賞

書肆

長谷川 嵩人 北海道旭川工業高等学校建築科

銀賞

創造と休息

伊藤 大智 北海道旭川工業高等学校建築科

銅賞

市立函館春陽保育園

中島 一葉 北海道函館工業高等学校建築科

銅賞

あさひの湯

小倉 愛加 北海道函館工業高等学校建築科

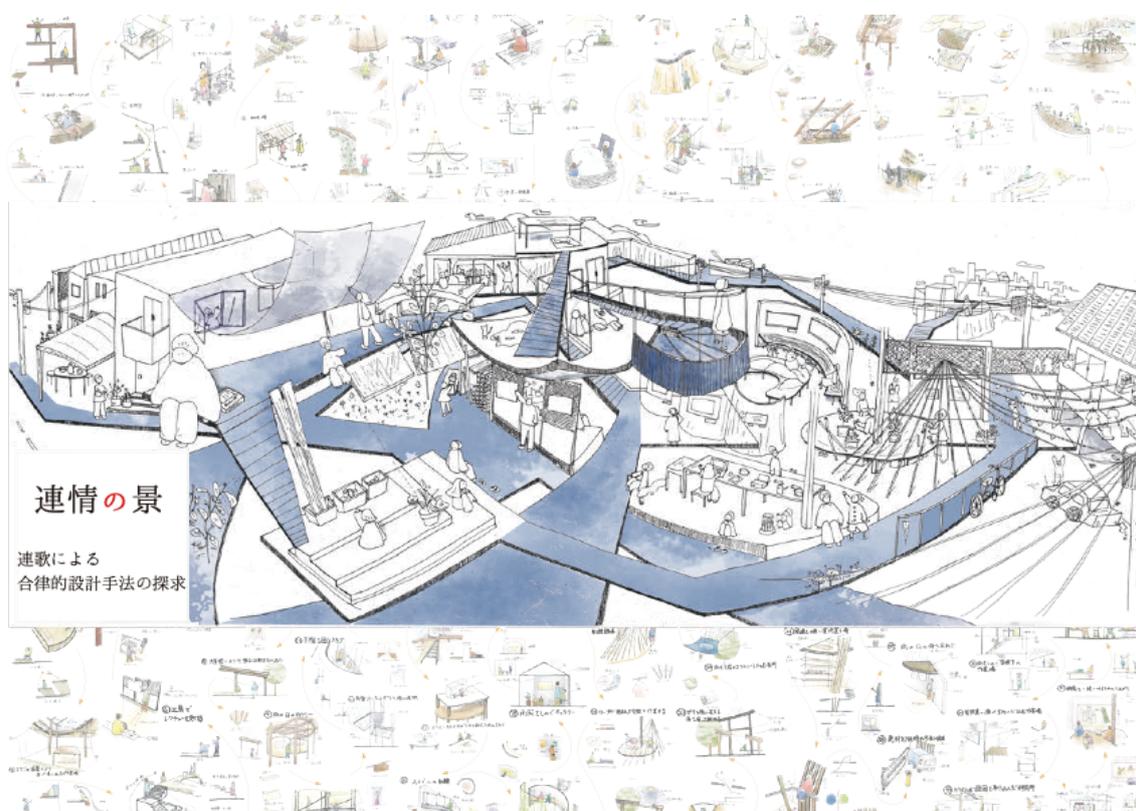
2021 年度卒業設計優秀作品 大学の部

金賞

連情の景—連歌による合律的設計手法の探求—

小野 誠治

北海道大学工学部環境社会工学科建築都市コース



建築家の役割とは何か、と考えさせられる意欲作である。現代社会での一義的に決められた価値観を受け入れ身体性が失われているという問題意識を背景とし、一方で多様な価値観のもと空間を多義的に使いこなす人々に着目している。異なる価値や土地の文脈を生かし空間を更新するという手法に「連歌」のプロセスを用いるところが独創的である。地域の空間の更新は現実に起こっていることであるが、そこには秩序はなく、人や生活が優先されていないかもしれない。この計画ではルールがアクティビティをベースとしており、生活者である人々の息遣いが感じられる。このプロセスの発見も素晴らしいが、一つのモデルケースとして作品に落とし込んでいる力量も評価できる。また、ここでは建築家の役割は裏方のようであり、今後、多様化していくであろう建築家の在り方を示唆するものとしても興味深い作品である。(菅原秀見)

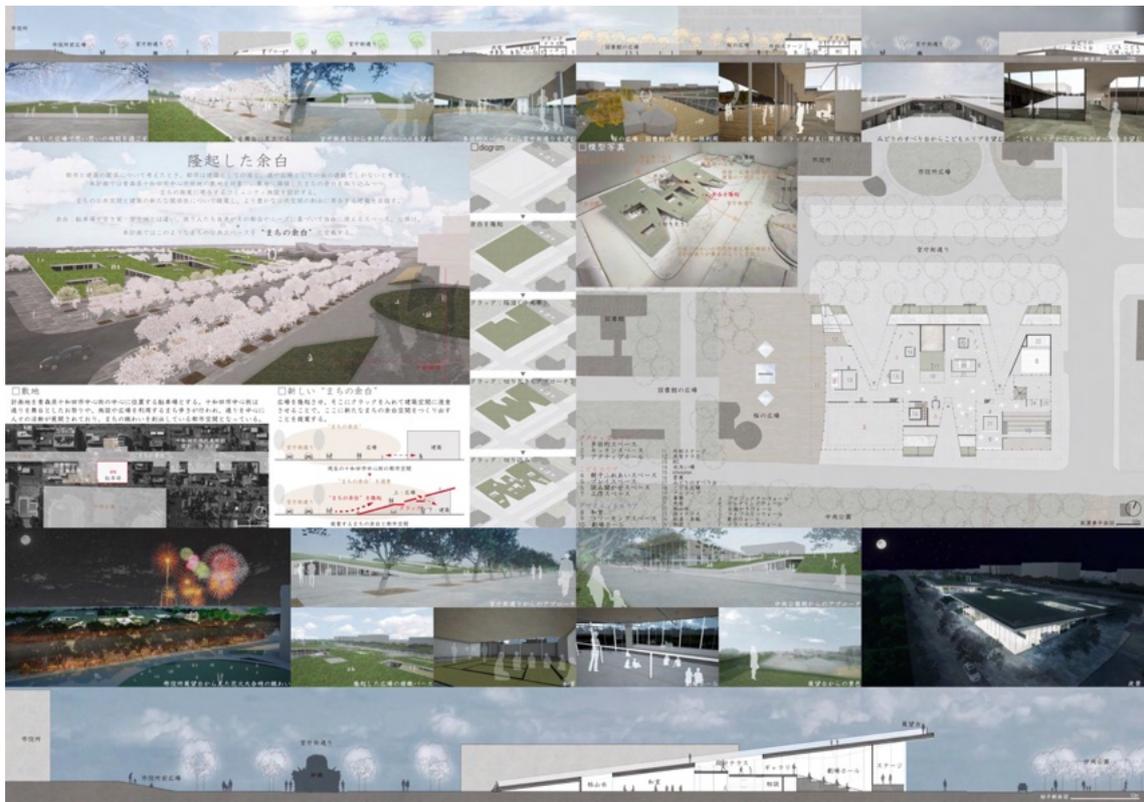
2021 年度卒業設計優秀作品 大学の部

銅賞

隆起した余白

加藤 雅大

室蘭工業大学工学部建築社会基盤系学科



都市と建築の関係を分解していくと、建築は箱であり、その他は道や広場など面の連続というロジックで建築を再構成したものである。

新たな公共空間のあり方や建築との関係性を提案するものであり、そこを利用する人が目的に応じて自由に使えるスペースは、人々により場所や建築を発展させて行くというそんな場所を「まちの余白」と定義している。

緩やかに傾けられた緑の人工地盤は所々が切りとられ建築空間が挿入されている、作者が言う「隆起した余白」の出現である。

図式的には興味深い提案であるが、建築自体の多様性や自由度が望めず、そこに新たな提案が欲しいところではあるが、何れにしても秀作であった。(小西彦仁)

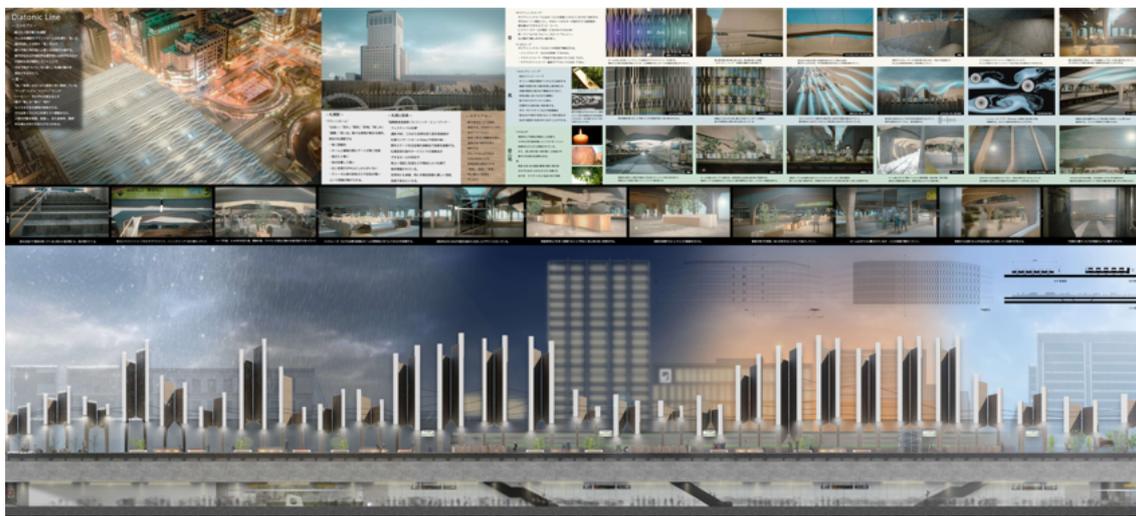
2021 年度卒業設計優秀作品 短大・高専・専門学校の一部

金賞

Diatonic Line

町田 哲平

北海道芸術デザイン専門学校建築デザイン学科



駅舎全体が美しい楽器のような印象的な外観の札幌駅の計画である。

自然の音と風を楽器のような屋根の形状により、駅舎の空間が高低の微細な変化の組合せによって音が重なり、ハーモニーを奏でる環境を計画している。

奏でられる音は各自の想像に委ねられるが、公共空間を心地良い音で包む新鮮な感性は独創的であり、空間全体の快適性を高める提案が重ねられ、表現全体が緻密で美しい絵画のようなまとまりがあり、金賞にふさわしい力作である。(遠藤謙一良)

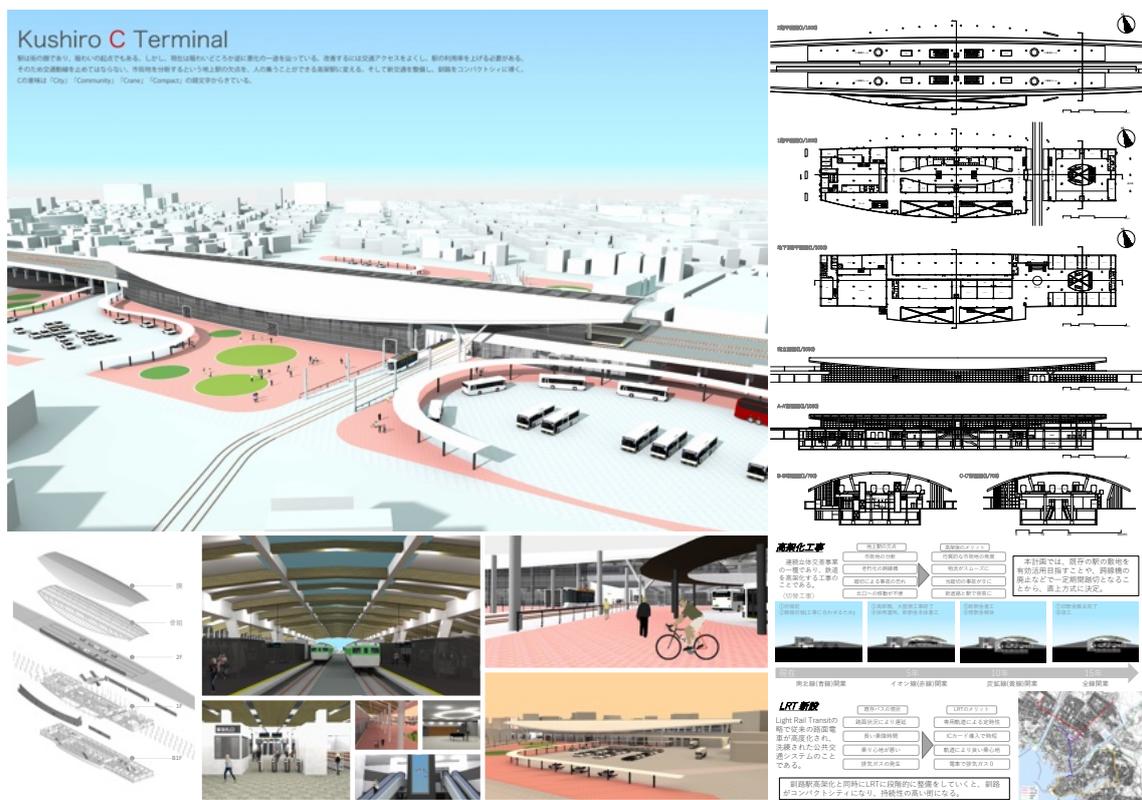
2021 年度卒業設計優秀作品 短大・高専・専門学校の一部

銀賞

Kushiro C Terminal 高架化と LRT でコンパクトシティに

下山 雄大

釧路工業高等専門学校創造工学科



美しい屋根のシルエットが印象的な釧路駅の建て替えの計画である。造形的な特徴だけではなく、平面図からは丁寧な事例調査や建築計画がなされたことが読み取れる。また、駅周辺の分析と計画をおこなうなど、都市計画的な視点も含めた提案であることが高く評価された。さらに、JR の高架化、LRT の路線検討など釧路市広域での交通ネットワークの提案まで行うなど、釧路の明るい未来が見えて来そうな提案である。これら多岐にわたる提案を CG により分かりやすいプレゼンテーションにまとめあげている。以上の点より、銀賞がふさわしいと判断しました。(小倉寛征)

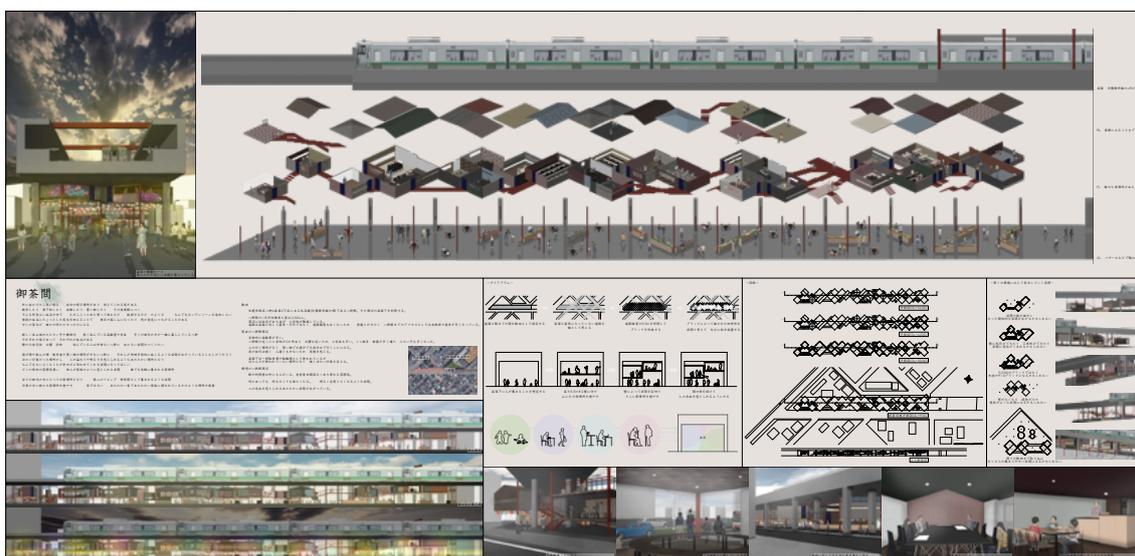
2021 年度卒業設計優秀作品 短大・高専・専門学校の部

銅賞

御茶間

横山 斐巳

北海道芸術デザイン専門学校建築デザイン学科



高架下の有効活用を提案した作品である。現状では拠点施設がなく単なる通過点としての駅を、地域住民の属性や求められる機能を分析したうえで、コミュニティ形成の場として再生している。街区構成から延長されたグリッド、適度なスケール感などから、ごく自然に地域住民の居場所として空間が出現している。もう少し密度を抑え可変性を予感させたほうが良かったかもしれないが、まちづくりの視点を持ち、丹念に描かれたプレゼンテーションなど、作者の強い思いが込められている力作として評価した。(菅原秀見)

2021 年度卒業設計優秀作品 工業高校の部

銀賞

創造と休息

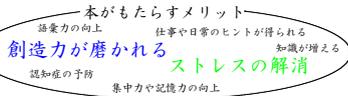
伊藤 大智

北海道旭川工業高等学校建築科

設計主旨

買物公園では老若男女様々な人たちが通行、買物をしている。特に旭川駅方面は人通りも建物も多く賑わっているイメージが強いが、8条方面は古い建物や駐車場が多く人通りが少ないイメージが強い。その原因として、買物公園は旭川駅から8条通りまで約1kmあるため、買物しながら歩くとなると疲れてしまうことや8条方面は目的地となる施設や店が少ないことが挙げられると考えた。それを少しでも解消するため、読書しながら休むことも休むことができる図書館が必要だと感じた。

読書にはストレスの解消をし、心を落ち着かせるだけでなく、創造力が磨かれるなど様々なメリットがある。私はこの創造力に着目し、アート作品にも創造力を磨く力があると思った。そこで、アートの中でも旭川では珍しい若い人でも楽しめるデジタルアートを取り入れることで人が集まりやすくなるのではないかと考え、デジタルアートを取り入れた図書館を設計した。

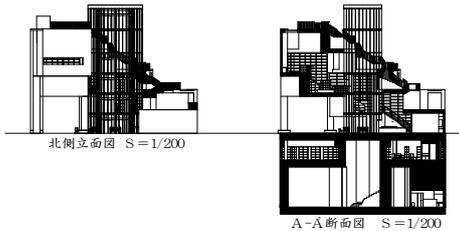
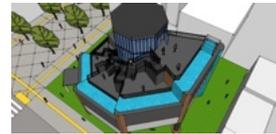


この建物は階が階段階段のようにずれており、上から見ると平面が扇形という変わった形をしている。そのため、買物公園のシンボルアートになると考えた。



買物公園では犬の散歩をしている人が度々見られる。散歩の途中で犬も飼いたい人も休憩出来るようにこの建物の外に広場と水飲み場を設けた。広場にはベンチがあるため、散歩の途中で休憩と水分補給ができるようにした。

創造と休息



旭川駅方面
敷地周辺の都市模型写真

概要

- 鉄骨鉄筋コンクリート造
- 延べ面積 1197.56㎡
- 建築率：32.9%
- 容積率：117.5%
- 1F…164.827㎡《受付》
- 2F…104.646㎡《図書スペース》
- 3F…104.646㎡《図書スペース》
- 4F…104.646㎡《読書・勉強スペース》
- B1F…428.413㎡《書庫・スタッフルーム》
- B2F…364.398㎡《デジタルアートルーム》

設計予定地を5条周辺にすることで8条方面からもアクセスしやすくなった。この建物の向かい側には旭川フードテラスがあり、そこでは種類豊富なランチやスイーツなどが堪能できる。読書やデジタルアートを楽しんだ後に空いたお腹を満たすことができるため、心身ともにリフレッシュできると考えた。

旭川買物公園はかつて賑わいをみせ楽しい通りであったが、駅から離れるにつけ昨今は商業施設が歯抜け状に姿を消し空地や駐車場となっている。

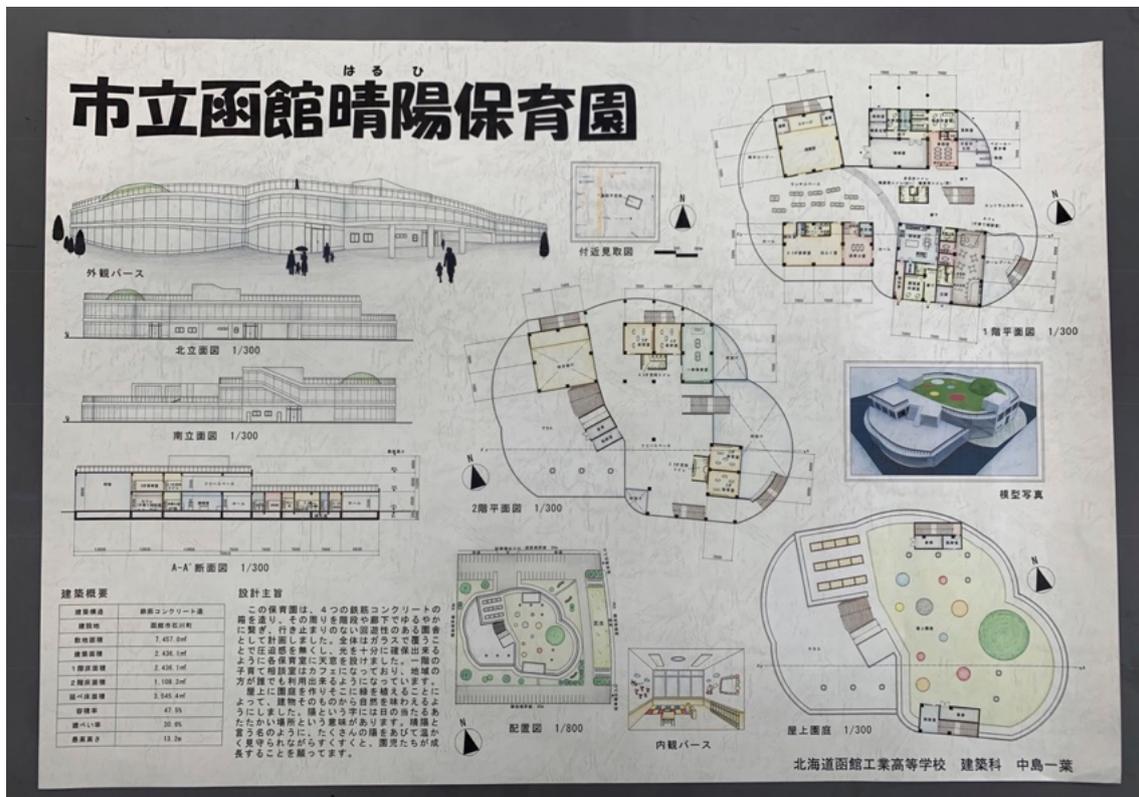
そんな状況を解消すべく、買物公園のほぼ中間の位置に新しいスタイルの図書館の計画である。ここでは心と身体を図書やデジタルアートを通じ癒しまは楽しむことができる。螺旋状に計画された空間は上昇に伴い様々な場所が設定されており、その日のコンディションにより居場所を変えることができ、多くの人々が利用するであろうと想像できる秀作であった。(小西彦仁)

銅賞

市立函館春陽保育園

中島 一葉

北海道函館工業高等学校建築科



積木のように散らばった4つの箱（コア）を、ランチルームやフリースペースといった共用スペースが柔らかく繋ぐ保育園の計画である。この共有スペースが建築に楽しさと明るさを生み出す装置としてとても有効に機能している。また、曲面ガラスによる開放的な外観は、周辺地域に賑わいを生み出すだろう。屋上や外構、遊具まで丁寧にデザインする姿勢には、利用する園児たちへの設計者としての優しさ、細やかな気遣いが読み取れた。以上の点より、銅賞がふさわしいと判断しました。（小倉寛征）

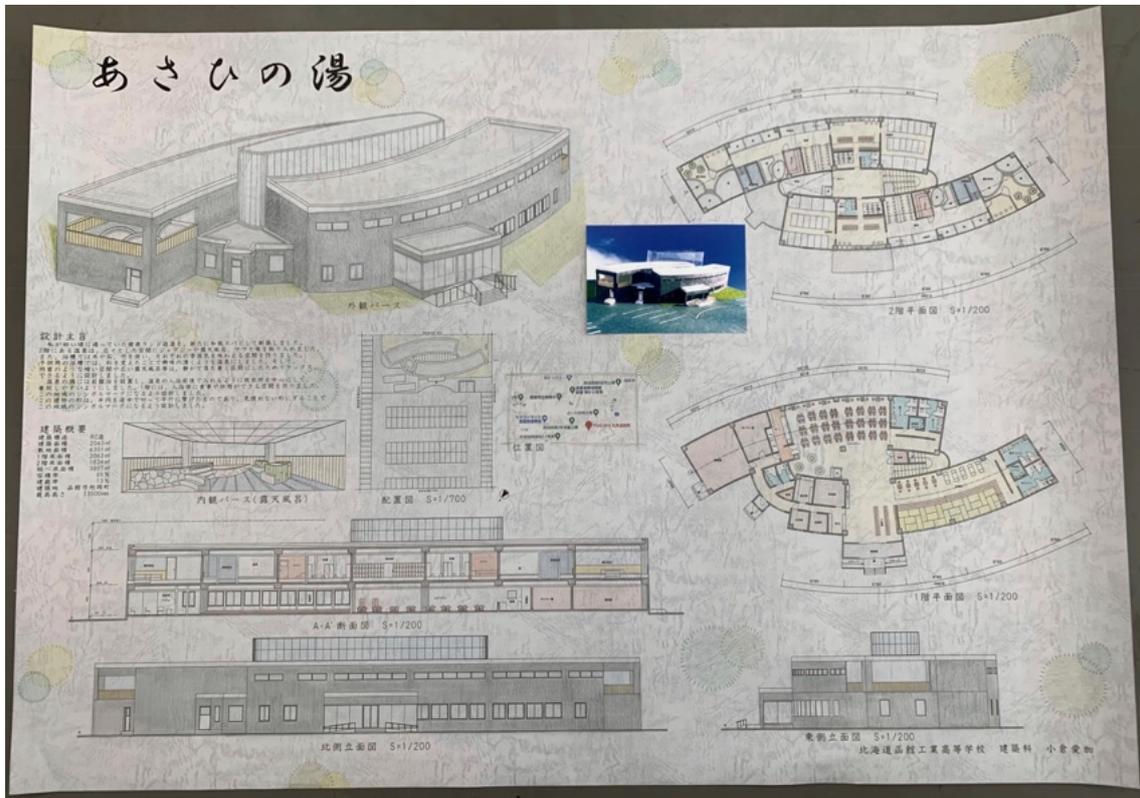
2021 年度卒業設計優秀作品 工業高校の部

銅賞

あさひの湯

小倉 愛加

北海道函館工業高等学校建築科



地域に親しまれる温浴施設の計画。円弧上に露天風呂、浴室、脱衣室を並べ、男女別にずらして配置させることで外観に特徴を出している。中央の吹抜けが印象的で、多くの人が集えるレストランや休憩室など設計主旨と整合性も取れている。手書きの表現が丁寧で、工業高校の卒業設計として評価できる。よって銅賞を送るものとする。(斎藤文彦)